

【別紙資料2】

「漫才ロボット」による笑いの研究 (UMIN000035499)

研究の概要	
目的	漫才台本自動生成機能を持つ「漫才ロボット」が、がん患者を楽しませることが可能かを、ビデオ動画笑顔認識と自記式質問紙（アンケート）により調査します。
評価項目	主要評価項目：ビデオ動画を用いた笑顔認識による笑顔の回数と持続時間。 副次評価項目：自記式質問紙（WHO-5 精神的健康状態表を一部改変）による精神的健康状態。
選択基準	大阪国際がんセンター受診がん患者（がん種は問わない）
研究方法	同意を得られたがん患者に、「漫才ロボット」による即興漫才を鑑賞してもらいます。鑑賞中はビデオ動画を撮影し、鑑賞後に自記式質問紙に回答してもらいます。撮影したビデオ動画を用いて笑顔認識を行います。1回につき10分程度を同日に3回行い、連続しない2日で計6回の動画撮影を行います（被験者は異なる）。
予定参加者	30人

■目的：

医療や介護における心のケアには、「笑い」と「癒やし」が必要であると言われています。甲南大学 知能情報学部では医療や介護の現場で人に笑いを与えることを目的として、「漫才ロボット」の研究開発を行っています。「漫才ロボット」（あいちゃんとゴン太の2体）は、「お題」を与えると、人工知能によりインターネットから様々な知識を取得して漫才台本を数分で自動生成し、漫才を演じることができます。本研究では、実際の医療現場において「漫才ロボット」が、身体的、精神的負担を強いられることも多いがん患者を笑わせることが可能かを評価するとともに、現状の「漫才ロボット」の課題を明らかにします。

■研究対象者：

大阪国際がんセンターで受診するがん患者が対象です。大阪国際がんセンターの診察券をお持ちの20歳以上の方で本人同意があれば、参加できます。

■方法：

侵襲を伴わない介入研究です。「漫才ロボット」による即興漫才を鑑賞し、鑑賞前から後までビデオ動画を撮影し、鑑賞後に自記式質問紙に回答します。がん患者5人程度からなるグループ毎に「お題」（テーマ）を出していただき、「漫才ロボット」が数分で漫才台本を自動生成して漫才を演じます（2～3分程度）。

■研究組織：

研究責任者：

大阪国際がんセンター がん対策センター 所長 宮代 勲

共同研究責任者：

甲南大学 知能情報学部 教授 灘本 明代

奈良先端科学技術大学院大学 研究推進機構 特任准教授 荒牧 英治